



発行所
 一般財団法人
 広島県動員学徒等犠牲者の会
 事務局
 広島市南区比治山本町12-2
 広島県社会福祉会館内
 〒732-0816 電話 (082) 252-0316
 印刷所 Taisei
 デジタルブック
 “慟哭の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

各国首脳が広島に残した言葉

理事長 本地 正治

本年5月19日から3日間、広島でG7サミットが開催されましたが、この開催期間中に各国の首脳が、原爆資料館を訪れ被爆の実相に触れ、原爆慰霊碑に敬虔な祈りを捧げたことは、「あらゆる核は絶対悪である」と訴え続けている被爆地広島で開催したことの意義を示す、大きな成果の一つであったように思います。

1日でも早く戦争のない世界が実現することを祈って、G7首脳及びゼレンスキー大統領が原爆資料館で芳名録に記帳した内容を「被爆地広島に残した言葉」として紹介します。

日本 岸田文雄首相

歴史に残るG7サミットの機会に議長として各国首脳と共に「核兵器のない世界」をめざすためにここに集う。

フランス マクロン大統領
 感情と共感の念をもって広島で犠牲となった方々を追悼する責務に貢献し、平和のために行動することだけが、私たちに課せられた使命です。

米国 バイデン大統領
 この資料館で語られる物語が、平和な未来を築くことへの私たち全員に。世界から核兵器を最終的に、そして、永久になくせる日に向けて、共に進んでいきましょう。信念を貫きましょう！

カナダ トルドー首相

多数の犠牲になった命、被爆者の声にならない悲嘆、広島と長崎の人々の計り知れない苦悩に、カナダは厳粛なる弔慰と敬意を表します。

貴方の体験は我々の心に永遠に刻まれることでしょう。

ドイツ ショルツ首相

この場所は、想像を絶する苦しみを思い起こさせる。私たちは今日ここでパートナーたちとともに、この上なく強い決意で平和と自由を守っていくとの約束を新たにす。核の戦争は決して再び繰り返されてはならない。

イタリア メロニー首相

本日、少し立ち止まり、祈りを捧げましょう。本日、闇が凌駕するものは何もないということを感じておきましょう。本日、過去を思い起こして、希望に満ちた未来を共に描きましょう。

英国 スナク首相

シェイクスピアは、「悲しみを言葉に出せ」と説いている。しかし、原爆の閃光に照らされ、言葉は通じない。広島と長崎の人々の恐怖と苦しみは、どんな言葉を用いても言い表すことができない。しかし、私たちが、心と魂を込めて言えることは、繰り返さないということだ。

ミシエル EU大統領

80年近く前、この地は大いなる悲劇に見舞われました。このことは、

目次

各国首脳が広島に残した言葉	1～2
第67回原爆死没者追悼式ご案内	1
ごあいさつ・お世話になる方々	3
令和4年度事業報告・収支決算	4～5
伝承講話「兒玉さんの被爆体験」	6～8
令和5年度行事予定表	8
ご寄付のお礼・あとがき	8

8月6日原爆死没者追悼式ご案内

巡りくる8月6日が近付いてまいりました。皆様方にはいかがが経過してございますか。本年も会として第六十七回追悼式を執り行います。

八時十五分から

追悼式(学徒慰霊碑前)

九時から

ご来賓による献花

当日の午前中は、これまでどおり死没者名簿の閲覧などを行います。また、会員、関係者の皆様用のテントと椅子を準備しています。

お暑い時で大変とは存じますが、お体にお気を付けていただきお参りくださいますようお願いいたします。

われわれG7が実際何を守ろうとしているのか、なぜそれを守りたいのか、改めて思い起こさせます。それらは、平和と自由。なぜならば、それは人類が最も渴望するものだからです。

フォンデアライエン欧州委員長
 広島で起きたことは、今なお人類を苦しめています。これは戦争がもたらす重い代償と、平和を守り堅持するというわれわれの終わりなき義務をはつきりと思い起こさせるものです。

ウクライナ ゼレンスキー大統領
 平和記念資料館の訪問に深く感銘を受けた。世界中のどの国も、このような苦痛と破壊を経験することがあつてはいけない。現代の世界に核による脅しの居場所はない。



役員・活動模様などの写真



令和5年4月7日 研修会参加の役員の方々



令和5年4月7日 研修会模様



令和5年5月26日 清掃参加の役員の方々



令和5年5月26日 清掃模様



ごあいさつ
広島県健康福祉局
社会援護課長

六箱 栄子

この度、健康福祉局社会援護課長に就任し、援護行政に携わることになりました。よろしくお願ひ申し上げます。

最愛の肉親を失われました御遺族の皆様におかれましては、決して癒えることのない深い悲しみを胸に、多くの苦難を乗り越えてこられたところであり、その間の御心労と御苦労のほどは、察するに余りあります。



ごあいさつ
広島市健康福祉局保健部保険年金課
福祉医療担当課長

穴戸 千穂

広島県動員学徒等犠牲者の会の皆様におかれましては、日頃から本市政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、健康福祉局保健部保険年金課福祉医療担当課長に就任し、援護行政に携わることとなりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

先の大戦において負傷され、あるいは最愛の御家族を亡くされた会員の皆様におかれましては、長きにわたり、肉体的にも精神的にも大きな苦痛

ウクライナ情勢が緊迫化し、核兵器使用のリスクへの懸念が高まる中、原子爆弾による破壊から復興を遂げた広島でG7サミットが開催されました。世界の平和と発展に努力を続けた被爆者や遺族の思いが、平和へのメッセージとして伝わった事を願います。

日本国内はもちろんのこと、世界中のどの地域においても戦争の惨禍を繰り返さないために、より一層戦争の悲惨さや、戦没者の方々の尊厳を犠牲の上に今日の我が国があることを次の世代に語り継ぐとともに、再び戦禍により尊い命が失われることに耐えてこられました。その痛みはいかばかりかと拝察申し上げます。

戦後七十五年が過ぎ、当時を知る方々の高齢化も進み、記憶の風化が懸念されますが、今日のわが国の平和と繁栄の礎は数多くの動員学徒や女子挺身隊員の方々の尊い犠牲により築き上げられたものであり、そのことを私たちは決して忘れてはなりません。

本市では、「国際平和文化都市」の実現に向けて、「世界に輝く平和のまち」、「国際的に開かれた活力あるまち」、「文化が息づき豊かな人間性を育むまち」という三つの柱の下、「共助」と「協調」を基調とするまちづくりに取り組んでいるところです。

本県では、援護関係施策のより一層の充実に向け、皆様とともに全力を傾けてまいり所存でございます。終わりに、貴会の益々の御発展と皆様の御健勝をお祈り申し上げます。あいさつとさせていただきます。



市民一人一人が平和について考える動する「平和文化」を広く地域社会に根付かせ、さらに世界中にも根付かせることで、核兵器の廃絶とその先にある世界恒久平和の実現を市民社会の総意にすることを目指していきたいと考えています。

戦後の復興・成長を支え、このまちを築き上げてこられた先人の努力を受け継ぎ、平和文化の振興に資するまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、皆様には、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴会の益々の御発展と、皆様の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

お世話になる方々

広島県

健康福祉局長 木下 栄作

社会援護課長 六箱 栄子

援護恩給グループ

主査 岩井 明子

主査 田川寧須子

主査 船石 幸恵

主査 見藤 裕幸

主任 泉岡 幹雄

主任 熊田 雄

電話 082-513-3036

広島市

健康福祉局保健医療担当局長 岩崎 学

健康福祉局保健部医務監 宮城 昌治

健康福祉局保健部保険年金課長 遠山 郁也

健康福祉局保健部保険年金課 福祉医療担当課長 穴戸 千穂

健康福祉局保健部保険年金課課長補佐 (事) 管理係長 名桑 数美

健康福祉局保健部保険年金課 健康福祉局保健部保険年金課長 神原 千晶

健康福祉局保健部保険年金課 健康福祉局原爆被害対策部調査課事務指導員 (慰霊等事業補助金担当) 浜岡 克宣

電話 082-504-2159

電話 082-504-2191

令和4年度事業報告書

- 1 広報活動の実施
 - (1) 原爆死没者追悼式の案内
会報「ともしび第136号」の送付に合わせ追悼式の案内を送付した。
 - (2) 会報「ともしび」の印刷・配布
・令和4年6月30日付け第136号 930部
・令和4年11月30日付け第137号 940部
 - (3) ホームページの運用
ア 会報「ともしび」136号、137号の掲載
イ 4年度アクセス数累計 9,941件
 - (4) 「慟哭の証言」等を関係機関等に配布
慰霊塔に千羽鶴を献納していただいた団体等へ冊子「慟哭の証言」等を送付した。
 - (5) 慰霊塔説明文の設置
慰霊塔の説明文を常時設置し、参拝者の理解の一助にした。
(1万5千部配布)
 - (6) 動員学徒等の顕彰と会の設立趣旨の広報
慰霊塔の清掃日等を利用して、随時、参拝者に対して原爆、空襲、動員学徒等犠牲者の状況等について説明した。

月 日	参加者数	供養会(西向寺)
4月7日	18人	○
4月20日	17人	
4月28日	17人	
5月6日	20人	○
5月23日	22人	
6月6日	20人	○
6月20日	17人	
7月6日	19人	○
7月20日	17人	
8月5日	20人	○
8月19日	16人	

- 2 第66回原爆死没者追悼式の挙行

日 時 令和4年8月6日(土) 午前8時15分から

場 所 動員学徒慰霊塔前広場

実施内容 祭壇・テントを設置し、原爆投下時刻に役員により黙祷を実施した。

会員は自由参拝とした。

黙祷ののち、式辞・来賓の追悼の言葉・学校代表の追悼の言葉をいただいた。

その後、来賓の献花をいただいた。

また、死没者名簿の閲覧対応を行った。閲覧希望者数は13件であった。(昨年度16件)
- 3 動員学徒慰霊塔の清掃・供花・英霊供養

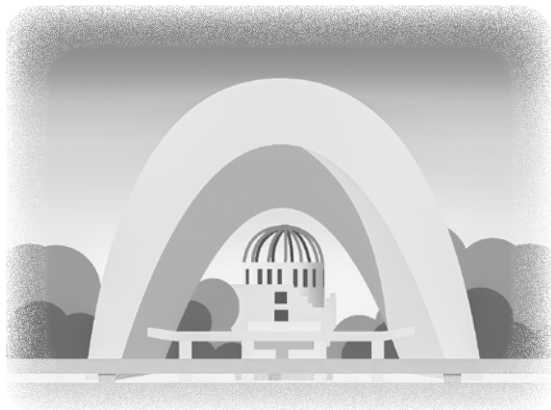
開催日	内 容
4・4・20	監事会 令和3年度決算関係監査
4・5・6	理事会 議案第1号 令和3年度事業報告に関する件 議案第2号 令和3年度決算の承認に関する件 議案第3号 定時評議員会の招集の決定に関する件
4・5・23	定時評議員会 議案第1号 令和3年度事業報告に関する件 議案第2号 令和3年度決算の承認に関する件 議案第3号 理事、監事及び評議員の選任に関する件
4・7・6	理事会 原爆死没者追悼式の実施打合せ

開催日	参加者数	英霊供養
9月7日	19人	○
9月21日	21人	
10月6日	17人	○
10月19日	18人	
11月7日	23人	○
12月7日	20人	○
12月16日	19人	
1月6日	19人	-
2月6日	18人	-
3月6日	17人	○
3月22日	18人	

合計22回延412人参加(昨年度363人)

- 4 役員会等の開催
- 5 研修会の実施
12月16日開催を予定していたが、コロナウイルスの蔓延により延期した。
(令和5年4月7日に開催。本会の成り立ち・歴史を学んだ。)
- 6 その他
会員数 令和5年3月31日現在705名

開催日	内 容
5・3・22	理事会・評議員会 議案第1号 令和4年度収支予算の補正に関する件 議案第2号 令和5年度事業計画に関する件 議案第3号 令和5年度収支予算に関する件



令和4年度 収支決算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度A	前年度B	増減A-B	増減理由
I 経常利益.経常費用				
1 経常増減の部				
(1)経常収益				
事業収益				
追悼式典事業収益	266,000	232,000	34,000	
受取補助金等				
地方公共団体補助金	365,000	1,329,000	△ 964,000	
受取寄付金				
受取寄付金	171,000	256,000	△ 85,000	
雑収益				
受取利息	27,800	41,935	△ 14,135	
雑収益	738,724	476,753	261,971	
経常収益計	1,568,524	2,335,688	△ 767,164	
(2)経常費用				
事業費				
会議費	0	0	0	
旅費交通費	252,900	257,800	△ 4,900	
通信運搬費	204,850	206,634	△ 1,784	
消耗品費	154,611	146,207	8,404	
修繕費	0	4,400,000	△ 4,400,000	
印刷製本費	237,025	160,370	76,655	
光熱水費	38,584	31,345	7,239	
保険料	17,000	8,500	8,500	
委託費	214,760	169,520	45,240	
賃借料	0	0	0	
諸謝金	800,000	800,000	0	
支払負担金	120,000	120,000	0	
雑費	139,000	155,000	△ 16,000	
事業費計	2,178,730	6,455,376	△ 4,276,646	
管理費				
会議費	0	0	0	
旅費交通費	151,000	96,000	55,000	
通信運搬費	76,405	82,350	△ 5,945	
消耗品費	1,922	29,796	△ 27,874	
印刷製本費	4,090	6,000	△ 1,910	
光熱水費	0	0	0	
賃借料	0	0	0	
諸謝金	160,000	160,000	0	
公租公課	21,000	21,000	0	
支払負担金	299,984	295,378	4,606	
雑費	53,680	166,158	△ 112,478	
管理費計	768,081	856,682	△ 88,601	
経常費用計	2,946,811	7,312,058	△ 4,365,247	
(3)当期経常増減額	△ 1,378,287	△ 4,976,370	3,598,083	

私の伝承講話

―「一中生だった

兒玉光雄さんの

被爆体験―

村 輿 久美子

兒玉光雄さんが生まれたのは、1932年(昭和7年)。お父さんとお母さん、そして3歳年下の妹さんの4人家族でした。

1945年の4月。12歳の兒玉光雄さんは、当時広島で入学するのがとても難しいとされていた、広島県立広島第一中学校(通称「一中」)現広島県立広島国泰寺高校)に見事合格して、入学式を迎えました。翌日から始まった厳しい集団登校の訓練や、上級生への敬礼、服装点検などに慣れるまでは大変だったそうです。5月になると上級生は学徒動員で、軍需工場などに働きに行き、学校に来られなくなり、光雄さん達1年生も、普通教科の授業に代わって軍事教練が始まりました。学校に配属された将校達が監視する中で、軍人とはいかにあるべきかといった文章を暗唱させられたりして、中には覚えられなくて殴られる生徒もいたそうです。

8月6日の朝、一中ではこの日登校していた1年生307人の内、奇数学

級1・3・5組の約150名は市役所裏の建物疎開作業へ向かい、残る偶数学級2・4・6組の約150名は、交代時間まで教室で自習をしながら待つておく事になっていました。6組だった光雄さんは教室での自習組。この振り分けが運命を分ける事になりました。

小柄だった光雄さんの席は教室の窓側の一番前。8時10分を過ぎた頃、B29の爆音が聞こえて来て、友達が『おい、落下傘が落ちたぞ!見に行こう!』と中庭に駆け出しました。光雄さんもその声につられて外へ出ようとした時、教室の真ん中に集まっている友達たちが目に入りました。それは、『少年倶楽部』という漫画雑誌を読もうと集まっている人ばかりでした。光雄さんがその本に惹かれて、その中に割り込もうとしたその瞬間、ピカッと黄金の火柱のような強烈な光を感じ、とっさに机の下に潜り込もうとして、意識を失いました。

しばらくして、気が付くと辺りは真つ暗で油臭いものすごい土埃。息苦しくて、土の塊の様なものを何度か吐きました。木造の校舎は完全に崩れ落ち、光雄さんは、机と椅子のわずかな隙間に挟まれていました。頭を上に向けてみると、ぼんやりと薄明りが見えたので、手を伸ばして天井板をへし折ると、人が一人通れるく

らいの僅かな隙間が出来ました。慌てて抜け出そうとして、肩にブスツと15cmほどの大きな釘が突き刺さりましたが、腰を落としてその釘を抜くと、流れる血もそのままに、何とか崩れた校舎の外に逃げ出す事ができました。

外は真つ暗で何も見えません。その時、「おーい!」と呼ぶ声が出て、よく目を凝らしてみると、雑誌を持って来ていたY君が屋根の斜面を支える木材に首を挟まれています。光雄さんはありつた力の力を振り絞ってその垂木をへし折って、Y君を助け出しました。

朝だというのに太陽は無くなって、まるでおぼろ月夜の様です。辺りを見回すと、頭を柱で割られ、身動きしない友達や、首を挟まれて亡くなっている友達もいます。そして崩れた校舎の底からは、いくつもの呻き声が聞こえて来ます。光雄さんは、必死になって何人かの友達を引きずり出しました。

「しかし、それにしてもどうして誰も助けに来てくれないんだ?」最初一中だけがヤラレタのだと思っていた光雄さんは、しばらくして、周囲がぼんやりと見え始めた時、本当に驚きました。一中の校舎だけでなく、広島市の街全体が消えていたのです。木造の建物は跡形もなく倒れ、近くにある電力会社のビルや、遠くにあ

るはずのデパートや新聞社のビルがすぐ近くに見えて、それら残っているビルの窓という窓から炎が舞い上がっていました。

とその時、崩れた校舎の下から「この水筒をどけてくれ!」と親友の○君の叫び声がありました。見ると屋根を支える大きな木材と○君の太腿の間にアルミの水筒が挟まっている身動きが出来なくなっているんです。光雄さんはテコにする棒をさがして、何度か持ち上げようとしたのですが、ダメです。びくともしませんでした。それどころか棒は折れてしまいました。「これは一人じゃ無理だ!」と思った光雄さんは「おい、助けを呼んでくるからな、頑張れよ!」と声をかけて、人影の見えるプールの方へと向かいました。

光雄さんがプールにたどり着くと、そこは地獄の様な光景でした。建物疎開に出ていた生徒達が大火傷を負って、水を求めて戻って来ていたのです。プールの水は血で茶色く濁っています。皆服はボロボロ、髪の毛は焼け縮れ、火傷で顔は真つ赤になり、指先から皮膚が垂れ下がっていて、男女の区別もつきません。セーラー服の襟の部分だけが残っていて、かろうじて女学生だとわかるくらいです。破れた水道管から吹き出す水で、我先に焼けた顔を冷やそうとしている人達。「ああ、これで

は助けを求める事なんて出来ない」そう悟った光雄さんは、〇君の所へ引き返すことにしました。

とそこへ、顔中にガラスが突き刺さり、頭に血止めの布を巻いたY君がやってきて、「おい、火が回って来たぞ！逃げよう！」と口から血を吐きながら叫びました。その時、突然煙の臭いのするつむじ風が舞い上がって、炎がすぐ近くまで迫って来ました。…すると崩れた校舎の下から、「天皇陛下万歳！」「お母さーん！」「広島一中万歳！」と重苦しい幾つもの声が聞こえて来ました。そして、「君が代」を歌い始め、やがてその声は一中の校歌である「鯉城の夕べ：」へと変わって行きました。光雄さんは、為す術もなく炎に包まれていく校舎に向かって、合掌したまま「みんな、すまない、許してくれー！」と泣きながら叫び続けました。



炎に追われるように一中を後にした光雄さんは、東にある比治山を指して逃げました。しかし、途中から道の両側の家が燃えて炎のトンネルのようになっていて、それ以上前へ進むことが出来ません。炎の中を逃げ惑う内に気が付くと、日赤病院の前の電車通りに出ていました。そこで目にしたのは：夾竹桃の幹を握りしめたまま亡くなっているお母さん。その腕の中ではまだ生きている赤ん坊がお乳を探していました。そしてこの大通りには、炎から逃れようと南に向かってトボトボ歩く無残な被災者たちの行列が出来ていました。その中に居た一人の青年は、自分の飛び出した目の玉を掌に受けたまま、木の枝で地面を突きながら歩いていました。光雄さんはその青年を見守るように行列に加わりました。少し行くと、道端で倒れたブロッコリー畑に腰から下を挟まれ、助けを

求める女性がいきました。大人たちが誰一人助けようとしないうる女性の側を、光雄さんが取り過ぎようとした時、不意にパツと足をつかまれて、思わずその手を振り払ってしまいました。その瞬間のすがるような眼差しを、光雄さんは今でも忘れることが出来ません。怪我をした市民に混じって歩く兵隊達が、被災者を助ける事もせず、何よりも大切なはずの銃を杖の代わりにして、足を引きず

りながら歩いているのを見た時「ああ、日本も負けたな」と子供心に思ったそうです。

光雄さんが御幸橋のたもとに辿り着いたのは午前11時頃だったと思われます。この時間になると、暗闇は晴れて、ギラギラ照り付ける真夏の太陽が戻ってきていました。水を求めて次々と川へ入ろうとする被災者たち。道端には力尽きて焼けただれた幾つもの死体が並んでいます。そこへ軍隊のトラックがやって来て、それを無造作にまるで丸太ん棒でも積むようにトラックに載せていました。

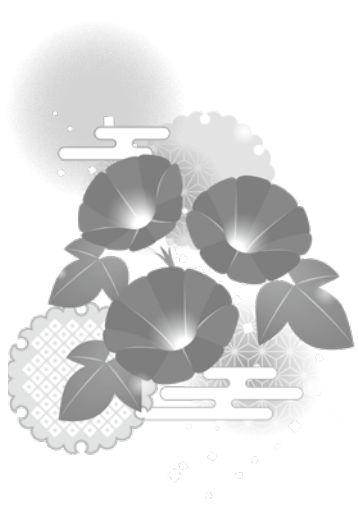
ここまで来て、光雄さんは急激に体調が悪くなり、吐いても吐いても吐き気が収まらず、喉はカラカラに乾いて気が遠くなりそう、倒れた橋の欄干に腰かけて、川面を流れていく沢山の黒い死体を呆然と眺めていました。全身の力が抜けて、本当に苦しくて動くことが出来ず、光雄さんは何度も死を覚悟したそうです。それでも「何としてでもこの橋を渡って家に帰りたい！」と、たった160mの橋を1時間以上かけてやっとの思いで渡り終えると、対岸にはもう煙も炎も迫って来ませんでした。

そこから爆風で壊れた迷路のような町を抜けると宇品線の丹那駅が見えてきました。この辺りは光雄さん

が小学生の頃、よくトンボを探りに来ていた懐かしい場所だったので、気が緩んだのか、原爆の急性障害も熱中症も一緒になったのかわかりませんが、光雄さんは道端に倒れ、気を失ってしまいました。

気が付いたときには、見知らぬ農家に運ばれていました。何でもこの家の甥子さんが一中の3年生だという事で、甥子さんの消息を心配していたおばあさんが、家の近くで一中の制服姿で倒れていた光雄さんを見つけて、助けて下さったのです。おばあさんは一杯の冷たい井戸水を飲ませて下さいました。この時の命をつないだ井戸水の美味しさは、生涯忘れることが出来ません。そして当時なかなか食べることが出来なかった白米のおにぎりも出して下さいましたが、光雄さんは全く食欲がなくて食べることが出来ませんでした。

夕方まで休ませてもらって、少し元氣を取り戻した光雄さんは家族の待つ戸坂村へ帰る事にしました。動き始めた宇品線で大洲口駅まで行き、火事で使えない広島駅を避けて、線路伝いにトボトボ歩いて矢賀駅まで行ってみると、プラットホームは被災者で溢れていました。見た目は何も怪我をしていない光雄さんは、気恥ずかしい気持ちで一杯でした。やってきた臨時列車に乗り込むと、



車内は被災者でぎゅうぎゅう詰めの状態、血と脂汗と嘔吐物の凄まじい匂いでした。それでも何とか自宅のある戸坂駅のホームに降り立つことが出来た光雄さん。その時広島島の方角に目をやると…街は炎に包まれ、上空は赤々と燃えていました。生きながら焼かれていったであろう友を思つて、光雄さんは泣きじゃくりました。

身も心も疲れ果てた光雄さんが、そこから歩いて10分程の自宅に辿り着いたのは、日付が変わる少し前でした。自宅では9歳の妹が迎えてくれました。お母さんは、光雄さんを探しに市内へ行っていました。夜中の2時頃に帰つて来て、涙を流して喜んでくれました。お父さんは前日の日から福岡に出張に出かけていて、幸い家族4人全員が無事でした。この翌日から光雄さんは三日三晩死んだように眠り続けました。

(次号へ続く)

令和5年度 行事予定表

一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会

年	月	日	曜	清掃後読経	月	日	曜	清掃 (行事がないときは解散)
令和5年	4	7	金	研修会	4	19	水	監事会
						26	水	
	5	10	水	理事会(西向寺) (令和4年度事業報告・決算の承認)	5	26	金	定時評議員会(西向寺) (令和4年度事業報告・決算の承認)
	6	7	水		6	21	水	
	7	6	木	追悼式打ち合せ会 (役割分担等) 会報「ともしび」封筒入れ (西向寺)	7	20	木	
	8	5	土	供養会	8	21	月	
		6	日	第67回原爆死没者追悼式				
	9	6	水	追悼式反省会(西向寺)	9	21	木	
	10	6	金		10	19	木	研修会
	11	9	木					
12	7	木	会報ともしび封筒入れ (西向寺)	12	20	水	懇親会	
令和6年	1	10	水					
	2	7	水					
	3	6	水		3	21	木	理事会・臨時評議員会(西向寺) (令和6年度事業計画・予算承認)

注1 慰霊塔付近の清掃は、午前9時30分からです。雨天の場合も実施します。
 2 左欄は、慰霊塔付近の清掃後「西向寺」で読経。
 右欄は、行事がないときは清掃後解散。
 なお、「西向寺」様の都合によって、日程変更する場合があります。

G7広島サミットが終わり各国首脳は、広島での滞在を満了し、笑顔で帰国の途につかれたようです。このことは、開催期間中に、県内高校生による、県民会議公式ロゴ・カウントダウンボード・電車やバスのラッピングデザインなどの作成
 ・小学生が育てた花を活用した、平和公園噴水そばの歓迎ボード(G7HIROSHIMA)
 ・美しい環境で来訪者をお迎えするために、多くの企業・団体が自主的に実施したクリーンアップ(清掃)運動
 ・国際メディアセンターなど様々な場面で奉仕した多くの学生ボランティア
 など、直接的な関係者だけでなく、オール広島で各国首脳を心からおもてなした成果です。
 また、全国から集まった警察官の大半が5月22日に帰県しましたが、首脳会議場のホテルがある広島市南区元宇品町では、遠くから来てくれて暮らしを守ってくれたと「ありがとう感謝」のメッセージカードを持つ多くの住民が、警察車両15台を見送り、警察官も敬礼でそれに応えたと報道されました。
 コロナ禍により長い間閉塞的な日々を過ごしていましたが、久々の明るい話題と言えるのではないのでしょうか。

あ と が き

振替口座 01300016188558
 一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。
 ゆうちょ銀行

山陽高等学校 図書職員
 小崎 圭子様
 西村 光子様
 仲 庫生様
 石田 英雄様
 令和4年10月から令和5年5月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございました。

ご寄付お礼